

消 防 統 計

平成26年中



第35回九都縣市合同防災訓練 埼玉県会場

平成26年度 埼玉県・草加市総合防災訓練

綾瀬川左岸広場

草加市消防本部

平成26年草加市 火災・救急・救助出動件数



【火災出動件数】

	平成26年	平成25年	増減
火災出動件数	56	56	0
建物	30	31	△ 1
車両	5	5	0
その他	21	20	1

【救急出動件数】



	平成26年	平成25年	増減
救急出動件数	10,919	10,427	492
火災	37	41	△ 4
水難	4	4	0
交通	1,202	1,212	△ 10
労働災害	88	81	7
運動競技	43	51	△ 8
一般負傷	1,533	1,447	86
加害	148	151	△ 3
自損行為	120	134	△ 14
急病	7,044	6,669	375
その他	700	637	63
救急支援 出場件数	1,880	1,441	439

【救助出動件数】



	平成26年	平成25年	増減
救助出動件数	120	110	10
火災・建物	8	8	0
火災・建物 以外	0	0	0
交通事故	22	23	△ 1
水難事故	3	4	△ 1
機械事故	0	3	△ 3
建物事故	72	57	15
その他	15	15	0

消防統計目次（平成26年中）

【火災統計】

火災の概要	P 1
月別火災発生状況	P 2
建物火災用途別発生状況	P 3
車両火災用途別発生状況	P 4
その他火災用途別発生状況	P 5
建物出火箇所別発生状況	P 6
時間別覚知状況	P 7
町名別火災発生状況	P 8
担当区域別件数	P 9
原因別火災発生状況	P 10
近年の推移から見る 平成26年の特徴	P 11
近年の火災原因の推移について	P 12
過去10年間の火災概況	P 13
緊急消防援助隊の登録状況	P 14

【救助統計】

救助活動状況の概要	P 27
事故種別救助出動状況	P 28
事故種別救助活動状況	P 29
事故種別救助人員	P 30
平成26年中の主な 救助活動事例	P 31

【救急統計】

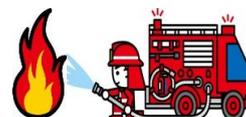
救急業務の実施状況	P 15
事故種別出動件数・搬送人員	P 16
町名別救急出動件数	P 17
救急隊別出動件数・搬送人員	P 18
月・曜日・時間別出動件数	P 19
現場到着所要時間別出動件数 （覚知～現場到着）	P 20
現場到着所要時間別出動件数 （出場～現場到着）	P 21
年齢別傷病程度別搬送人員 No. 1	P 22
年齢別傷病程度別搬送人員 No. 2	P 23
事故種別傷病程度別搬送人員	P 24
発生場所別搬送人員状況	P 25
市民に対する救命処置の講習会	P 26

【119番統計】

119番通報状況	P 32
平成26年火災報知専用電話等 （119番）種別受信状況	P 33



火災統計



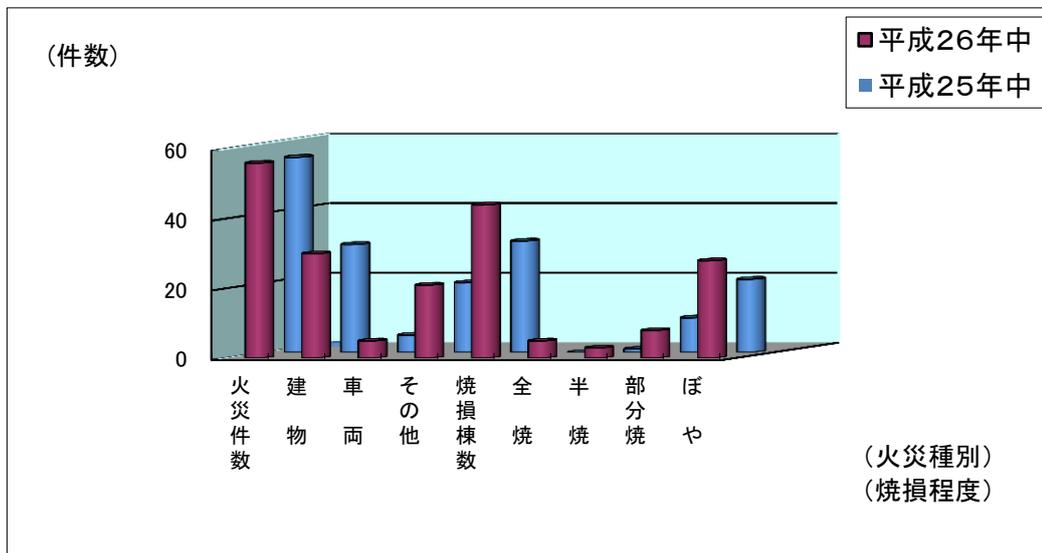
火災の概要

	単位	平成26年中	平成25年中	増減
火災件数	件	56	56	0
建物		30	31	△1
車両		5	5	0
その他		21	20	1
焼損棟数	棟	44	32	12
全焼		5	0	5
半焼		3	1	2
部分焼		8	10	△2
ぼや		28	21	7
焼損床面積	m ²	547	165	382
焼損表面積	m ²	23	35	△12
死者	人	1	1	0
負傷者	人	6	2	4
り災世帯	世帯	44	23	21
全損		7	1	6
半損		0	1	△1
小損		37	21	16
り災人員	人	95	53	42
損害額	千円	51,331	53,340	△2,009
建物(収容物含む)		47,573	41,745	5,828
車両		3,130	11,200	△8,070
その他		628	395	233
出火率	%	2.3	2.3	0.0

※ △は減数を表す。

※ 出火率は、火災件数／草加市人口×10,000にて算出する。

※ 焼損棟数は類焼含む。



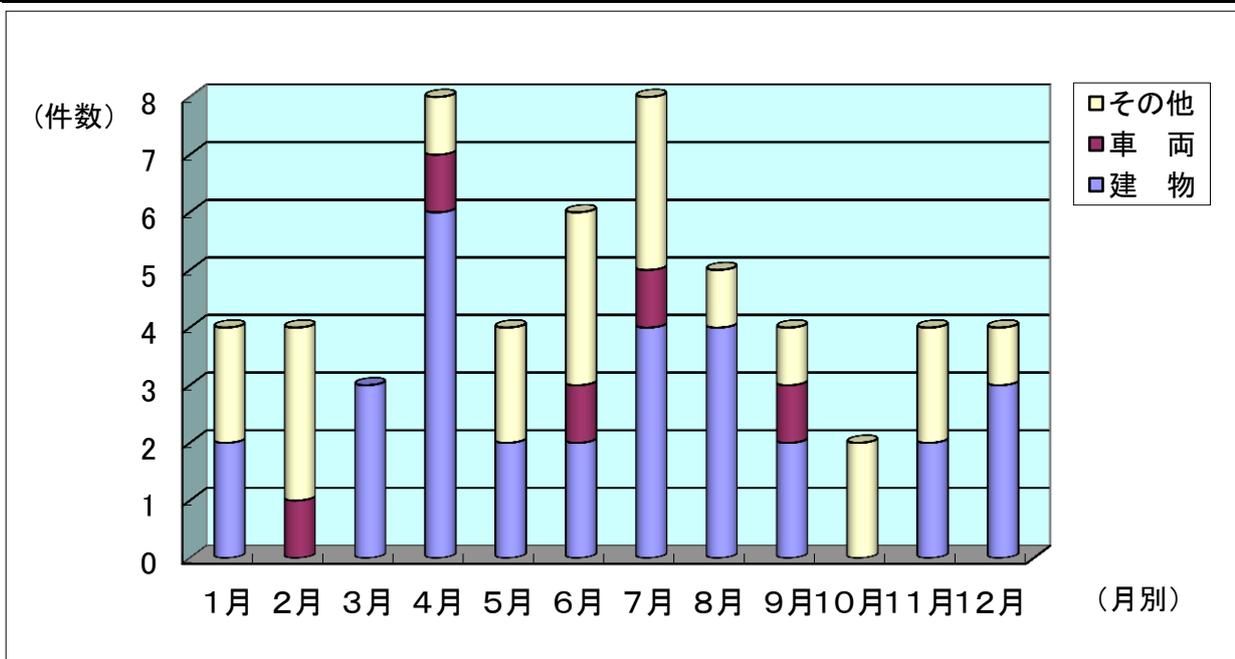
月別火災発生状況

月別に火災件数をみると、4月と7月の8件が最も多く、3番目は6月で6件の火災が発生しました。

建物火災の件数を月別で見ると、4月の6件が最も多く発生しましたが、火災の多発期に多い傾向ではなく、年間を通して発生し、特に特徴的な傾向は認められませんでした。

平成26年中の火災件数は56件で、前年と同数で、過去10年間で最も少ない件数が2年連続となりました。

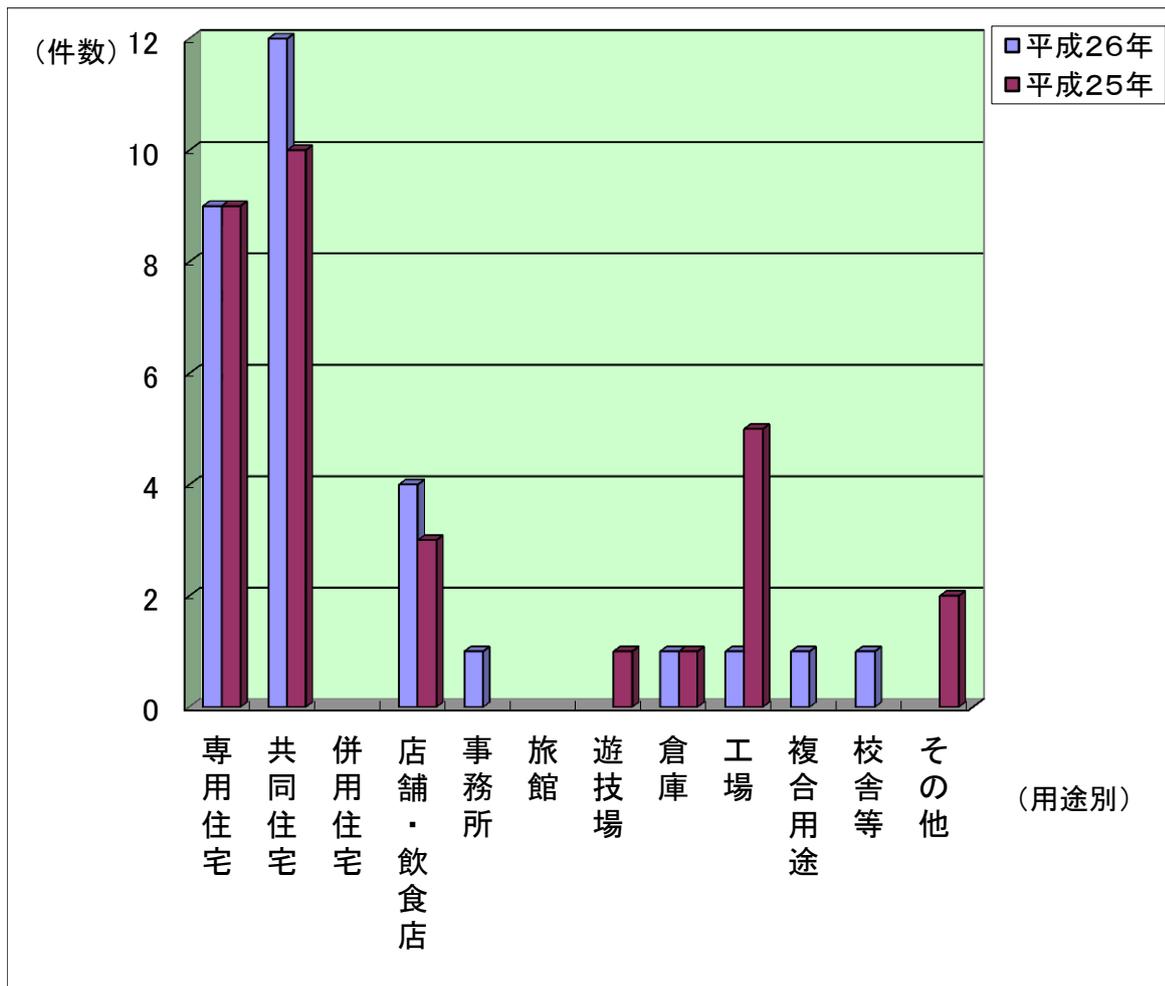
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
建 物	2		3	6	2	2	4	4	2		2	3	30
車 両		1		1		1	1		1				5
その他	2	3		1	2	3	3	1	1	2	2	1	21
計	4	4	3	8	4	6	8	5	4	2	4	4	56



建物火災用途別発生状況

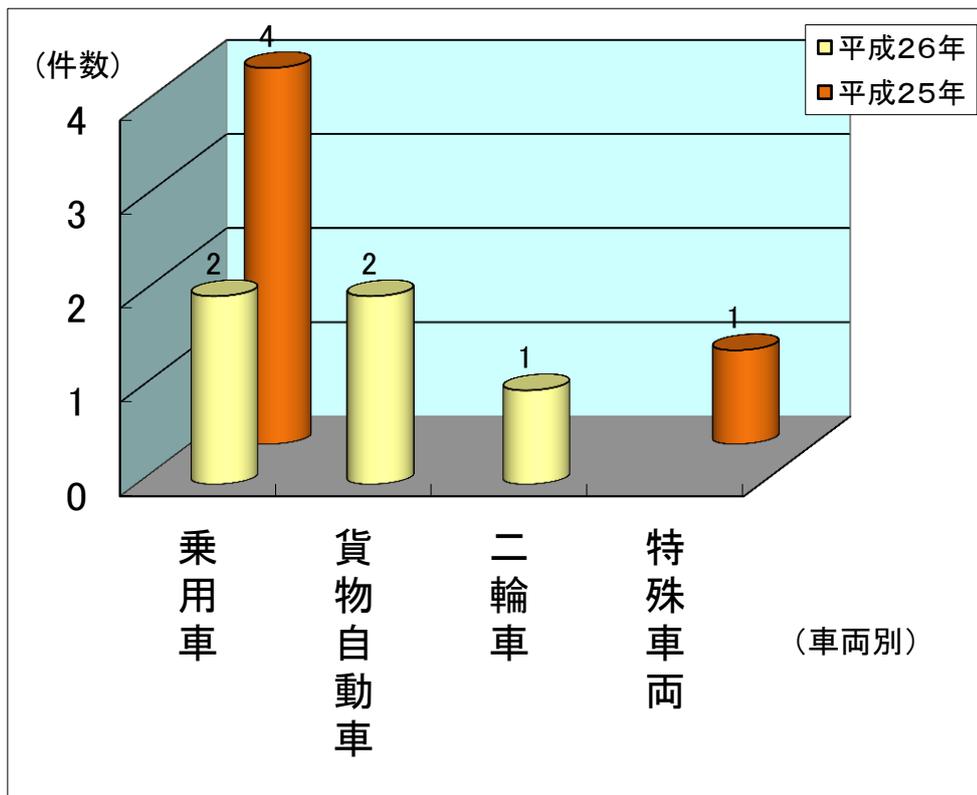
	平成26年	平成25年	比較増減	平成26年中の主要原因			
				放火	こんろ	たばこ	その他
専用住宅	9	9	0		2	1	6
共同住宅	12	10	2	1	3	1	7
併用住宅			0				
店舗・飲食店	4	3	1	2			2
事務所	1		1				1
旅館			0				
遊技場		1	△ 1				
倉庫	1	1	0				1
工場	1	5	△ 4				1
複合用途	1		1	1			
校舎等	1		1	1			
その他		2	△ 2				
合計	30	31	△ 1	5	5	2	18

※ 放火は放火の疑いも含む。



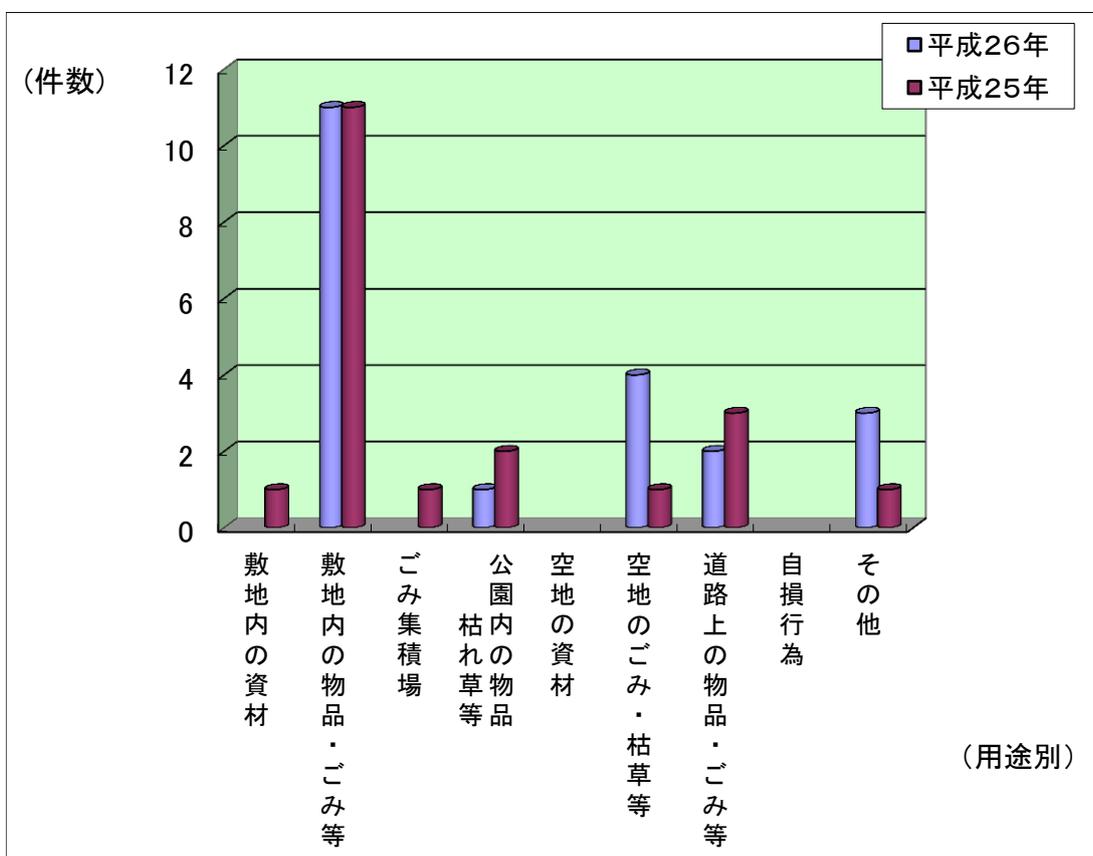
車両火災用途別発生状況

	平成26年	平成25年	比較増減
乗用車	2	4	△ 2
貨物自動車	2		2
二輪車	1		1
特殊車両		1	△ 1
合計	5	5	0



その他火災用途別発生状況

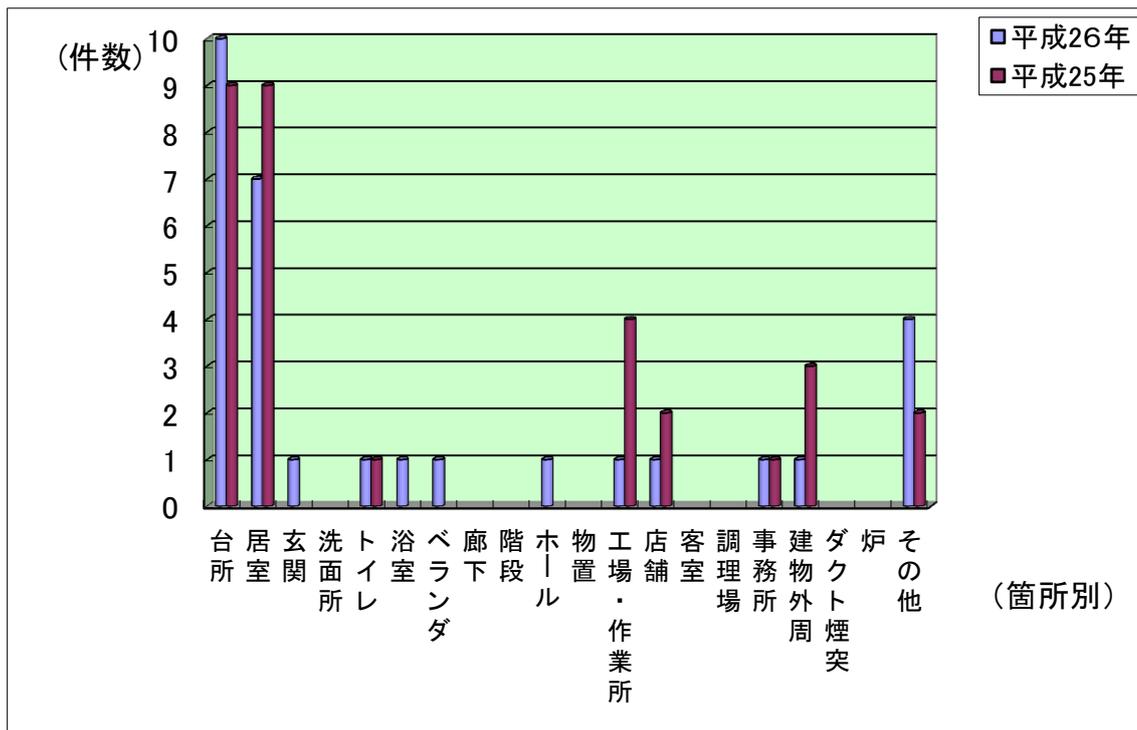
	平成26年	平成25年	比較増減
敷地内の資材		1	△ 1
敷地内の物品・ごみ等	11	11	0
ごみ集積場		1	△ 1
公園内の物品 枯れ草等	1	2	△ 1
空地の資材			0
空地のごみ・枯草等	4	1	3
道路上の物品・ごみ等	2	3	△ 1
自損行為			0
その他	3	1	2
合 計	21	20	1



建物出火箇所別発生状況

	平成26年	平成25年	比較増減	平成26年中の主要原因			
				放火	こんろ	たばこ	その他
台所	10	9	1		5		5
居室	7	9	△ 2			1	6
玄関	1		1	1			
洗面所			0				
トイレ	1	1	0	1			
浴室	1		1				1
ベランダ	1		1			1	
廊下			0				
階段			0				
ホール	1		1				1
物置			0				
工場・作業所	1	4	△ 3				1
店舗	1	2	△ 1				1
客室			0				
調理場			0				
事務所	1	1	0				1
建物外周	1	3	△ 2	1			
ダクト煙突			0				
炉			0				
その他	4	2	2	2			2
合計	30	31	△ 1	5	5	2	18

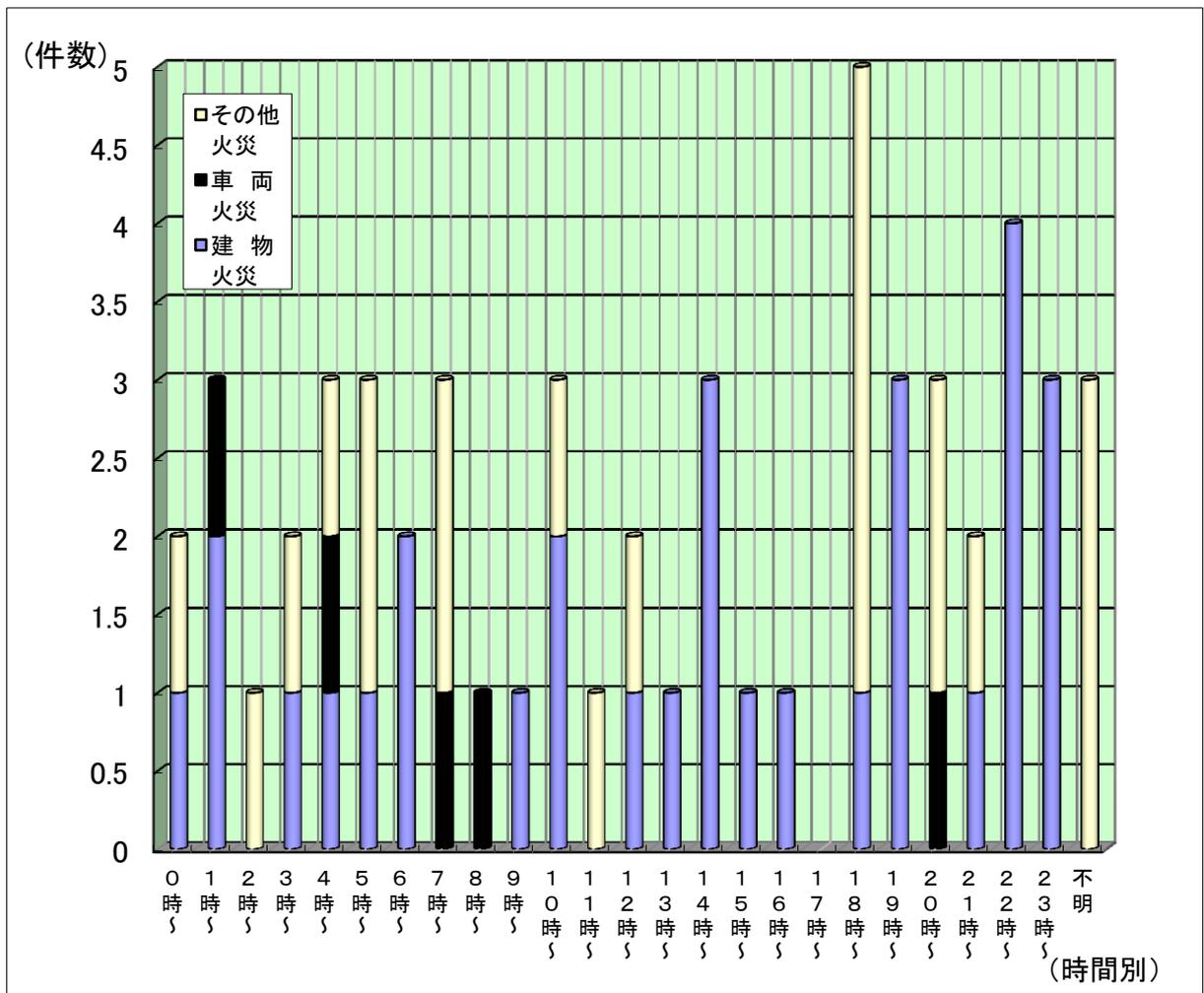
※ 放火は放火の疑いも含む。



時間別覚知状況

	0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	不明	合計
建物火災	1	2		1	1	1	2			1	2		1	1	3	1	1		1	3		1	4	3		30
車両火災		1			1			1	1												1					5
その他火災	1		1	1	1	2			2		1	1	1						4		2	1			3	21
合計	2	3	1	2	3	3	2	3	1	1	3	1	2	1	3	1	1	0	5	3	3	2	4	3	3	56
放火等	1	2	1	1		1					1		2				1		2					1	2	15
その他の原因	1	1		1	3	2	2	3	1	1	2	1		1	3	1			3	3	3	2	4	2	1	41

※ 放火等は、放火及び放火の疑いをいう。



町名別火災発生状況

平成26年中の火災総件数を、町名別で見ると次のとおりです。
 最も発生件数の多いのが金明町の6件で、以下谷塚町、瀬崎、弁天が4件となっています。
 25年中、最も多かった弁天は4件と前年同様で、氷川町が1件減少し、中根は0件となりました。
 また、平成26年中、火災がなかった地域は15の地域で、25年中より1つの地域が減少しました。。

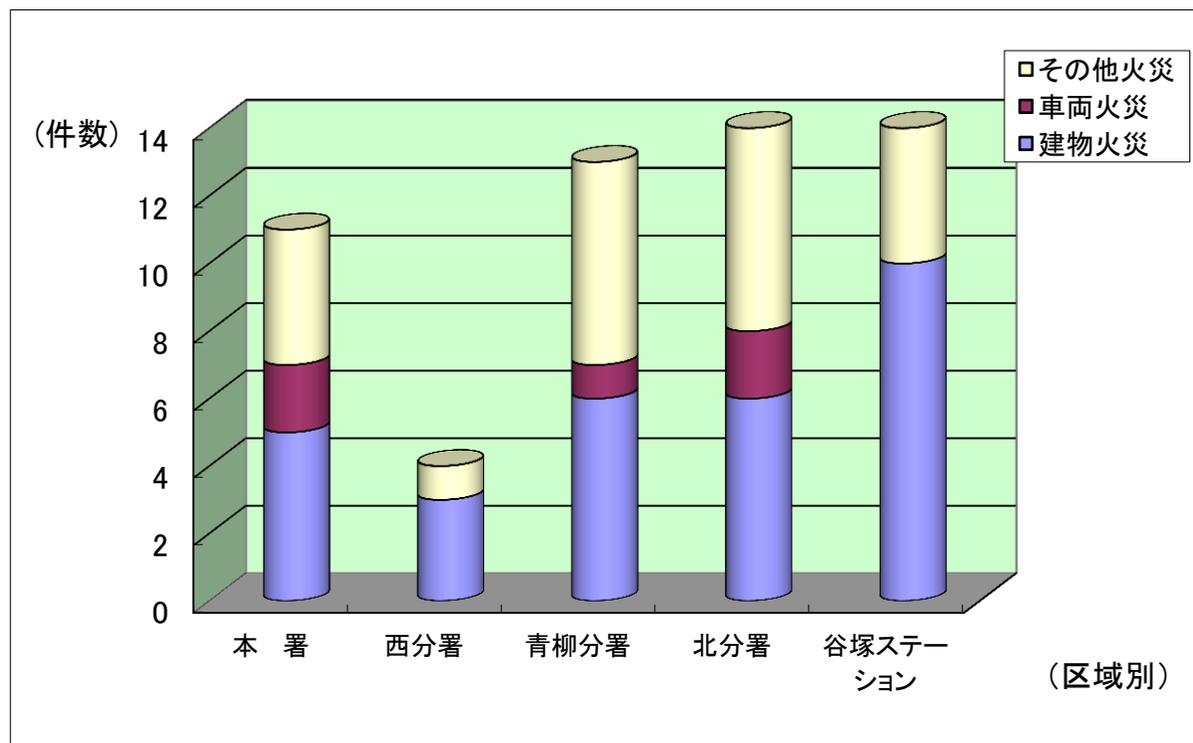
町名別火災発生件数一覧

町名	平成26年	平成25年	町名	平成26年	平成25年	町名	平成26年	平成25年	
青柳	2	3	神明	1		原町	1	1	
青柳町			住吉			氷川町	3	4	
旭町	2	3	清門町		1	弁天	4	4	
遊馬町		3	瀬崎	4	3	松江	2	1	
稻荷	1	1	草加	2		松原	3	2	
柿木町	3	1	高砂			谷塚	2		
学園町			中央			谷塚上町		3	
北谷	1	1	長栄町	2	1	谷塚仲町	2	2	
北谷町			手代町	1	1	谷塚町	4	3	
金明町	6	3	苗塚町			柳島町			
小山			中根		4	八幡町	3		
栄町	1	2	西町	1	1	吉町	1	2	
新栄町	1	3	新里町	1		両新田西町	1	2	
新善町	1	1	花栗			両新田東町			
							合計	56	56



担当区域別件数

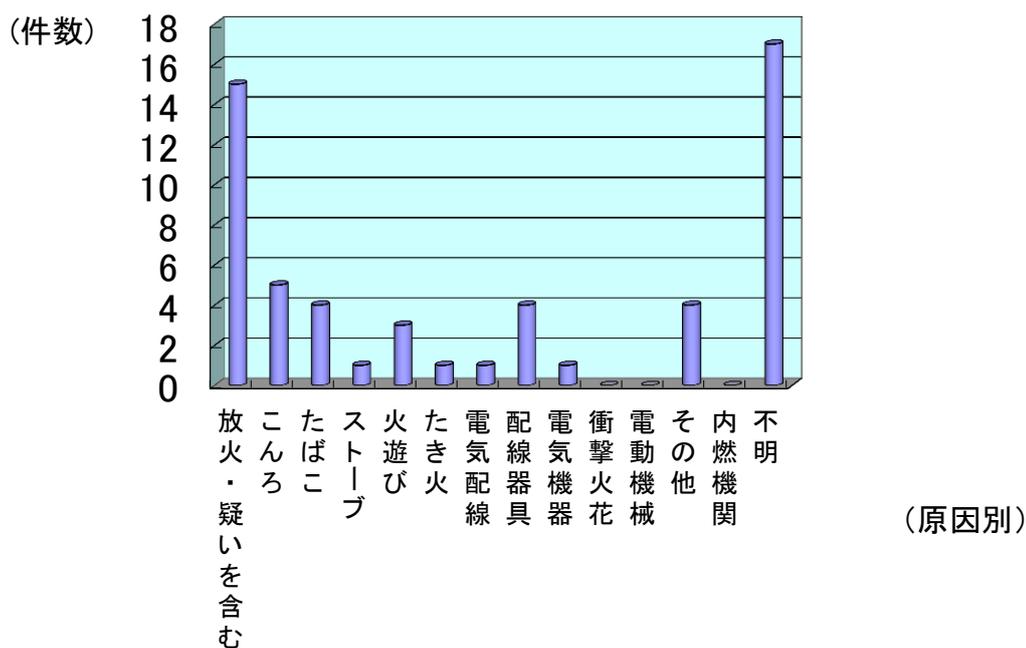
	建 物 火 災	車 両 火 災	そ の 他 火 災	合 計
本 署	5	2	4	11
西 分 署	3		1	4
青 柳 分 署	6	1	6	13
北 分 署	6	2	6	14
谷 塚 ス テ ー シ ョ ン	10		4	14
合 計	30	5	21	56



原因別火災発生状況

※ 焼損程度・焼損床面積・焼損表面積・建物損害額は、類焼含む。

	合計	建物火災	焼損程度				車両火災	その他火災	焼損床面積 (m^2)	焼損表面積 (m^2)	建物損害額 (千円)
			全焼	半焼	部分焼	ぼや					
放火・疑いを含む	15	5			2	3	1	9		4	87
こんろ	5	5			2	3			9	1	48
たばこ	4	2				2		2			3
ストーブ	1	1				1					8
火遊び	3	2				2			1		5
たき火	1	0							1		
電気配線	1	0							1		
配線器具	4	3			1	2	1		1		97
電気機器	1	1				1					20
衝撃火花	0	0									
電動機械	0	0									
その他	4	3			1	2		1	22		148
内燃機関	0	0									
不明	17	8	5	3	2	12	3	6	515	18	47,157
合計	56	30	5	3	8	28	5	21	547	23	47,573



近年の推移から見る平成26年の特徴

1 火災件数について

火災発生件数は、社会の諸状況によって大きく変化します。

特に放火等は出火の増減に大きく影響します。

平成26年中の火災総発生件数は、前年と同数で、過去10年間で最も少ない56件が2年連続でした。

放火等（疑いを含む）による出火は15件で、前年より1件減少しましたが、原因別では、25年連続でワースト1になっています。

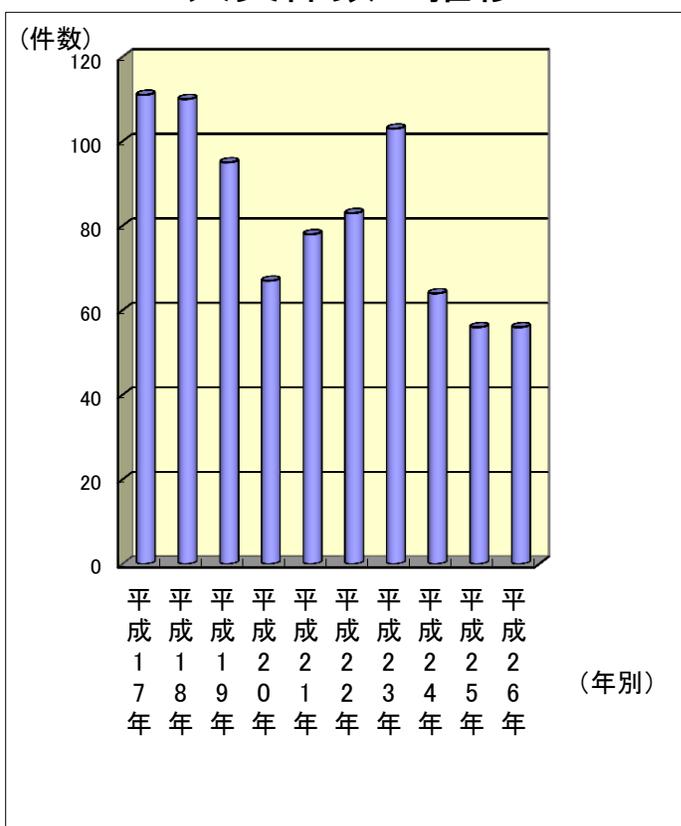
また、車両火災については前年と同様の5件で、その他火災については前年より1件増の21件発生しました。

2 出火率について

出火率とは、年内の火災総発生件数を草加市の人口1万人当たりで表したものです。

平成26年中は、2.3ポイントと前年と同数で、過去10年間で最も低い出火率がこれも2年連続となりました。

火災件数の推移



出火率の推移

	火災件数	人口	出火率
平成17年	111	238,314	4.7
平成18年	110	238,951	4.6
平成19年	95	239,896	3.9
平成20年	67	241,279	2.7
平成21年	78	242,175	3.2
平成22年	83	243,235	3.4
平成23年	103	244,401	4.2
平成24年	64	243,951	2.6
平成25年	56	244,013	2.3
平成26年	56	245,442	2.3
平均	82	242,166	3.4

※ 出火率は件数／人口×10,000

※ 人口は各年12月1日現在

近年の火災原因の推移について

平成26年中に発生した火災総件数56件の原因内訳を見ると、放火（疑いを含む）によるものが15件発生し、前年と比較し1件減少となっています。

次に多く発生しているのがこんろの5件で、前年より2件減少しました。

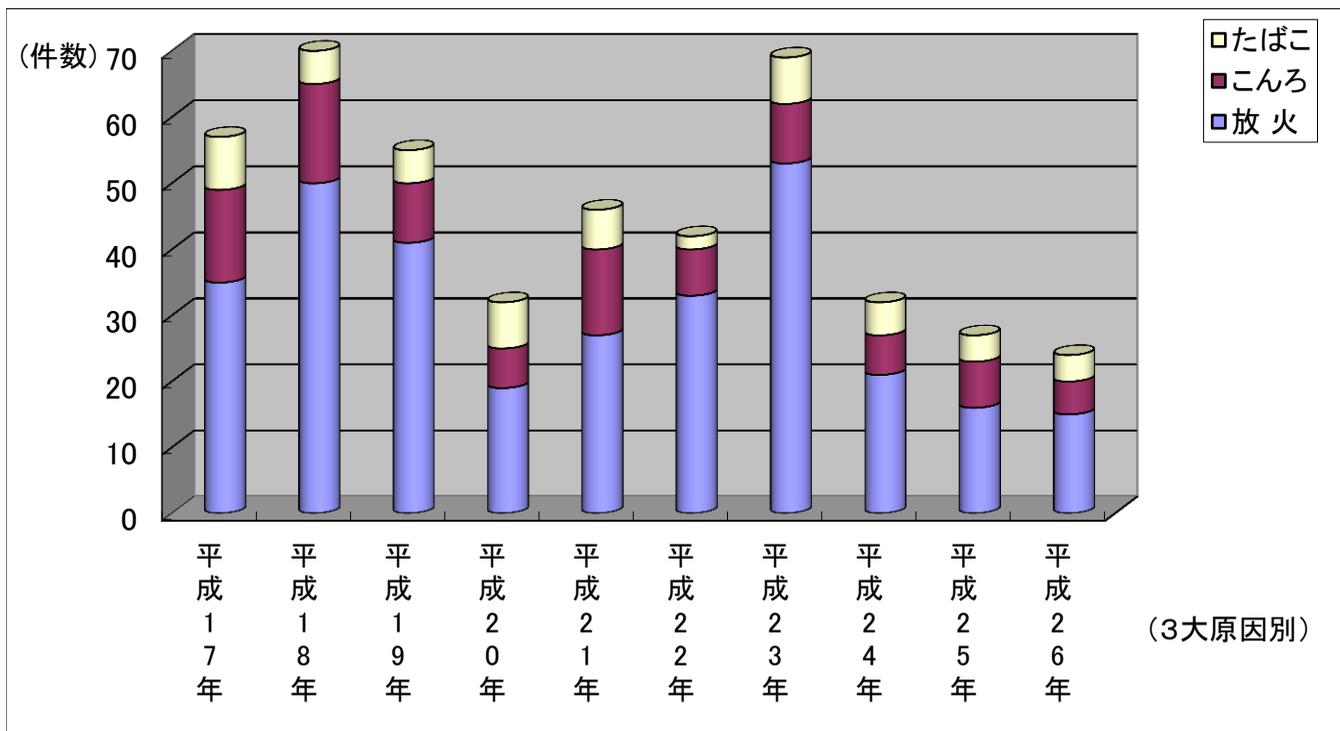
次いでたばこの4件は、前年と同数の件数となりました。

また、社会環境の進展や変化に伴い、火災の原因も多様化し、火災原因の究明もますます複雑かつ困難になっているのが現状です。

主な火災原因の推移

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	合計
放火	35	50	41	19	27	33	53	21	16	15	310
こんろ	14	15	9	6	13	7	9	6	7	5	91
たばこ	8	5	5	7	6	2	7	5	4	4	53
合計	57	70	55	32	46	42	69	32	27	24	454
年間火災	111	110	95	67	78	83	103	64	56	56	823
割合	51.4%	63.6%	57.9%	47.8%	59.0%	50.6%	67.0%	50.0%	48.2%	42.9%	55.2%

※ 放火は、疑いを含む



過去10年間の火災概況

年別	区分	火災件数(件)				焼損棟数(棟)					焼損面積(m ²)		損害見積額 (千円)	死傷者		り災世帯(世帯)				り災人員 (人)
		建物火災	車両火災	その他火災	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	床面積	表面積		死者	負傷者	全損	半損	小損	合計	
平成17年		50	12	49	111	11	7	27	21	66	7,373	91	1,077,177	5	23	3	5	27	35	117
平成18年		56	9	45	110	6	2	18	30	56	988	25	37,516	2	26	4	2	29	35	140
平成19年		59	9	27	95	5	10	23	30	68	1,484	81	87,244	6	23	14	7	38	59	161
平成20年		38	3	26	67	8	3	22	24	57	1,859	144	104,794	1	13	16	4	38	58	116
平成21年		48	10	20	78	3	1	21	28	53	448	24	45,025	1	10	8	1	55	64	130
平成22年		32	11	40	83	5	3	18	15	41	678	8	21,215	0	10	5	2	27	34	73
平成23年		51	6	46	103	6	2	24	30	62	1,069	95	54,547	3	12	13	0	35	48	124
平成24年		35	9	20	64	10	4	19	18	51	1,128	137	83,895	1	7	10	6	26	42	103
平成25年		31	5	20	56	0	1	10	21	32	165	35	53,340	1	2	1	1	21	23	53
平成26年		30	5	21	56	5	3	8	28	44	547	23	51,331	1	6	7	0	37	44	95

緊急消防援助隊の登録状況

緊急消防援助隊登録部隊数 《全国》

(平成26年4月1日現在)

指揮支援部隊	42隊	航空部隊	75隊
都道府県隊指揮隊	112隊	水上部隊	18隊
消火部隊	1,649隊	特殊災害部隊	272隊
救助部隊	423隊	特殊装備部隊	376隊
救急部隊	1,057隊	全国 744消防本部	
後方支援部隊	761隊	4,694隊(重複除く)	

緊急消防援助隊登録隊数 《草加市》

消火部隊	2隊	10人
救助部隊	1隊	5人
救急部隊	2隊	6人
特殊災害部隊	1隊	5人
計	6隊	26人

緊急消防援助隊の出動状況【平成16年4月1日法制化以降】

- ・平成16年 7月13日 新潟・福島豪雨
- ・平成16年 7月18日 福井豪雨
- ・平成16年10月21日 台風23号兵庫県豊岡市水害
- ・平成16年10月23日 新潟県中越地震(震度7)
- ・平成17年 3月20日 福岡県西方沖を震源とする地震災害(震度6)
- ・平成17年 4月25日 JR西日本福知山線列車事故
- ・平成19年 1月30日 奈良県吉野郡上北山村土砂崩れ車両埋没事故
- ・平成19年 3月25日 能登半島地震(震度6強)
- ・平成19年 4月15日 三重県中部を震源とする地震(震度5強)
- ・平成19年 7月16日 新潟県中越沖地震(震度6強)
- ・平成20年 6月14日 岩手・宮城内陸地震(震度6強)
- ・平成20年 7月24日 岩手県沖岸北部を震源とする地震(震度6強)
- ・平成21年 8月11日 駿河湾を震源とする地震(震度6弱)
- ・平成23年 3月11日 東日本大震災(震度7)
- ・平成25年10月16日 台風26号伊豆大島土砂崩れ
- ・平成26年 8月20日 広島県広島市土砂災害
- ・平成26年 9月27日 御嶽山噴火災害

救急統計



救急業務の実施状況

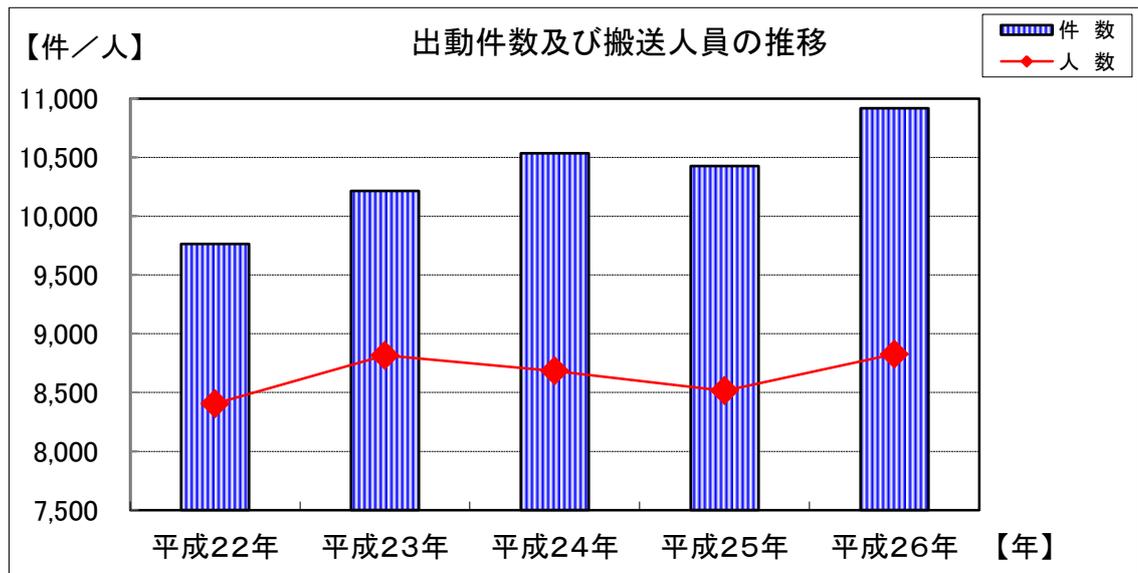
平成26年中の救急出動件数は、10,919件で前年と比較すると492件(4.7%)の増加となりました。また、搬送人員は、8,827人で前年と比較すると312人(3.7%)の増加となりました。

1日の平均出動は、約30件となり、市民の約28人に1人が救急車により搬送されたこととなります。



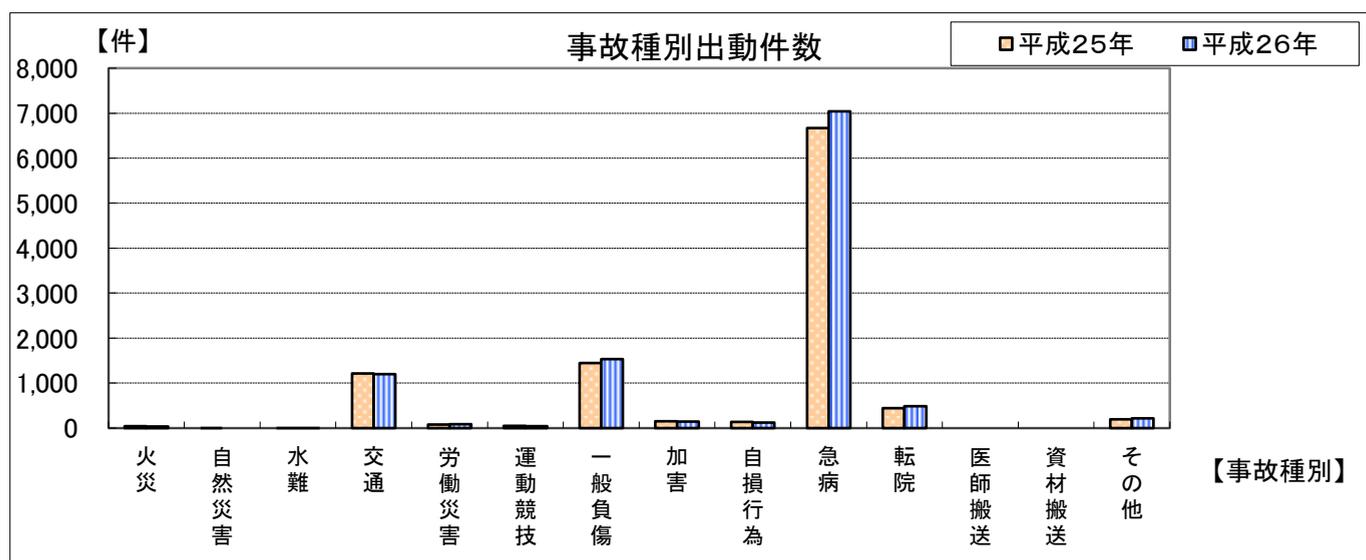
救急出動件数及び搬送人員の推移

	救急出動件数		搬送人員	
	件数	対前年比	人数	対前年比
平成22年	9,765	600 (6.5%)	8,405	438 (5.5%)
平成23年	10,216	451 (4.6%)	8,816	411 (4.8%)
平成24年	10,537	321 (3.1%)	8,684	△132 (-1.5%)
平成25年	10,427	△110 (-1.0%)	8,515	△169 (-1.9%)
平成26年	10,919	492 (4.7%)	8,827	312 (3.7%)



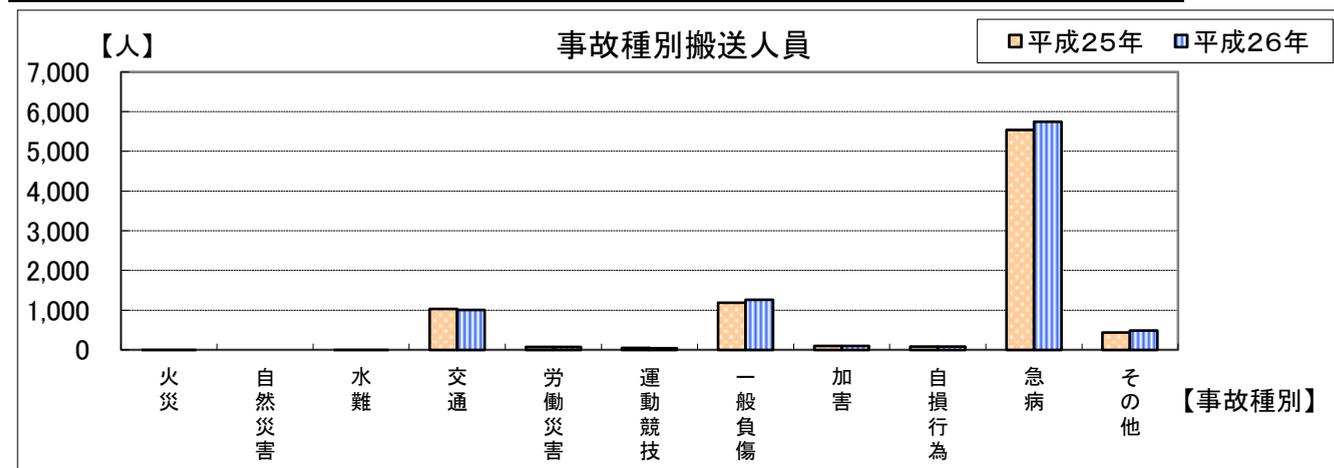
事故種別出動件数

	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院	医師搬送	資材搬送	その他	合計
平成25年	41	1	4	1,212	81	51	1,447	151	134	6,669	440	0	0	196	10,427
平成26年	37	0	4	1,202	88	43	1,533	148	120	7,044	486	0	0	214	10,919
前年比	△ 4	△ 1	0	△ 10	7	△ 8	86	△ 3	△ 14	375	46	0	0	18	492



事故種別搬送人員

	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
平成25年	4	0	2	1,030	77	50	1,186	98	87	5,541	440	8,515
平成26年	6	0	1	1,010	80	40	1,266	100	89	5,749	486	8,827
前年比	2	0	△ 1	△ 20	3	△ 10	80	2	2	208	46	312



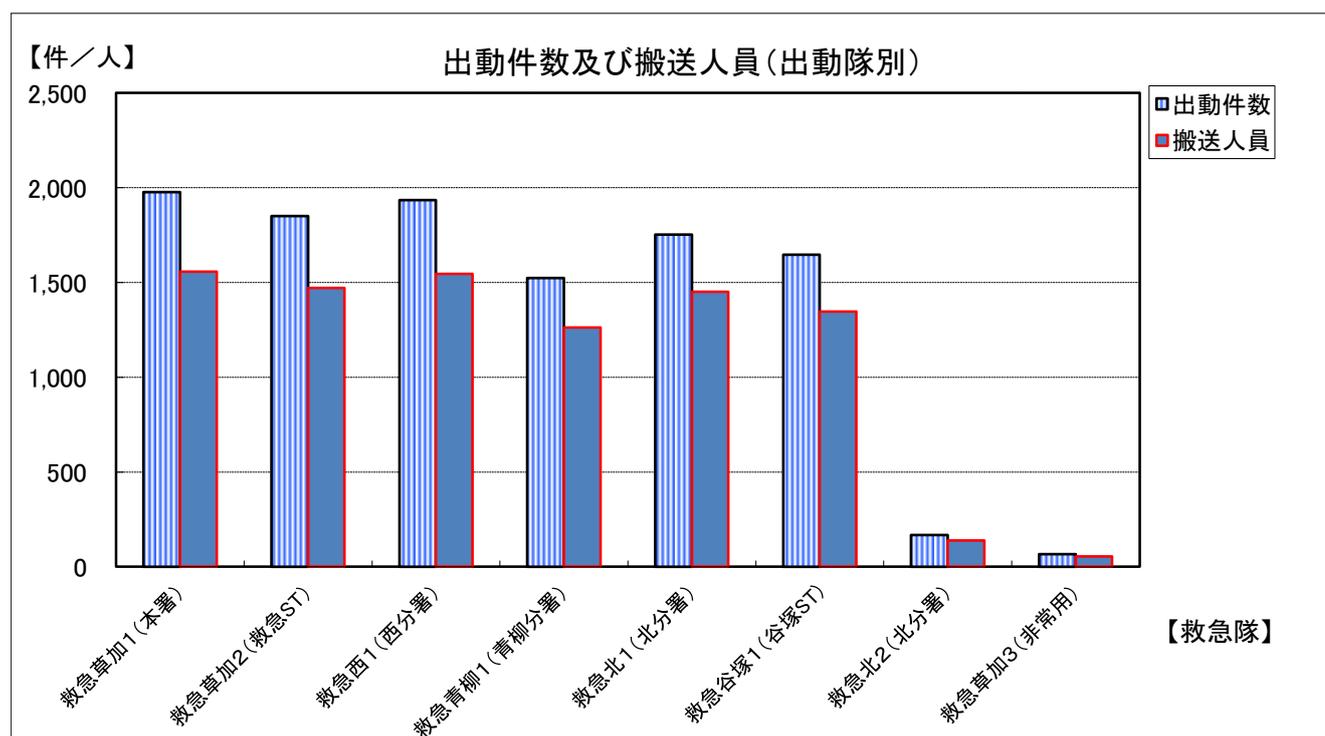
町名別救急出動件数

町名	件数	町名	件数	町名	件数
谷塚町	523	草加	371	住吉	142
氷川町	634	西町	329	谷塚上町	148
瀬崎	634	花栗	313	中根	178
松原	600	弁天	268	神明	97
青柳	621	新栄町	308	苗塚町	95
青柳町	5	松江	200	小山	105
旭町	355	中央	172	谷塚仲町	101
高砂	418	長栄町	225	原町	112
栄町	432	新里町	207	両新田西町	76
八幡町	348	柳島町	183	両新田東町	41
北谷	353	清門町	179	学園町	13
北谷町	2	遊馬町	187	谷塚	319
稲荷	314	柿木町	180		
吉町	289	新善町	234		
金明町	366	手代町	171		
東京都	4	川口市	4	越谷市	1
八潮市	26	外環道	36	その他	0
				合計	10,919

※平成26年11月22日より新栄町、長栄町、清門町の住居表示の変更あり。

救急隊別出動件数・搬送人員

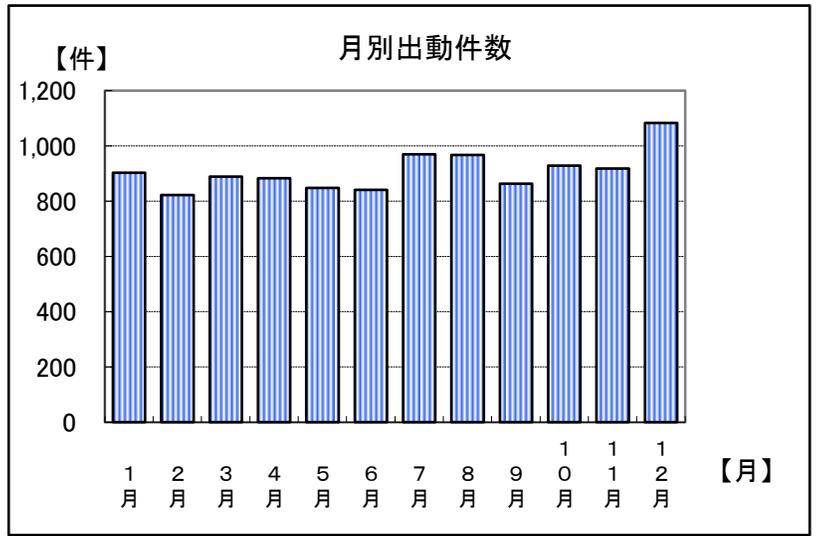
	出動件数	搬送人員
救急草加1(本署)	1,977	1,557
救急草加2(救急ST)	1,851	1,471
救急西1(西分署)	1,934	1,545
救急青柳1(青柳分署)	1,524	1,262
救急北1(北分署)	1,752	1,451
救急谷塚1(谷塚ST)	1,647	1,347
救急北2(北分署)	167	139
救急草加3(非常用)	67	55
計	10,919	8,827



月・曜日・時間別出動件数

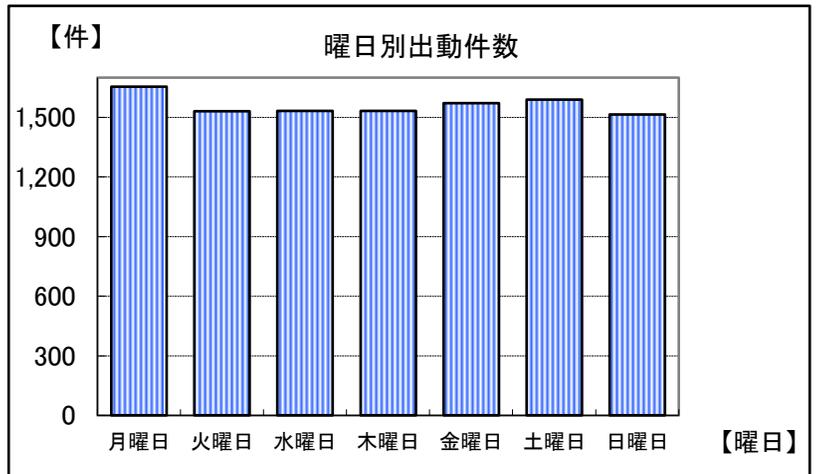
月別出動件数

月別	件数
1月	903
2月	823
3月	889
4月	883
5月	848
6月	841
7月	970
8月	968
9月	863
10月	929
11月	918
12月	1,084



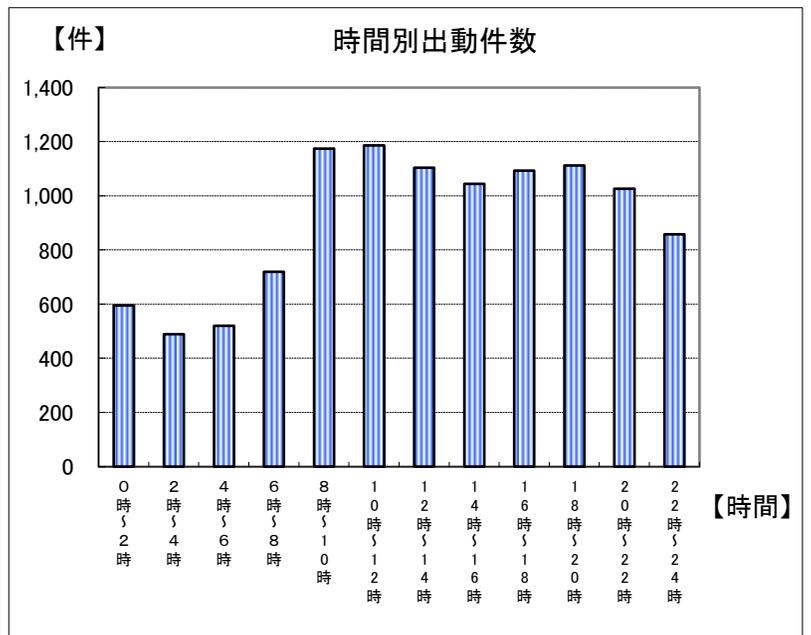
曜日別出動件数

曜日別	件数
月曜日	1,654
火曜日	1,530
水曜日	1,531
木曜日	1,532
金曜日	1,570
土曜日	1,589
日曜日	1,513



時間別出動件数

時間別	件数
0時～2時	595
2時～4時	489
4時～6時	520
6時～8時	719
8時～10時	1,174
10時～12時	1,186
12時～14時	1,103
14時～16時	1,044
16時～18時	1,093
18時～20時	1,112
20時～22時	1,026
22時～24時	858



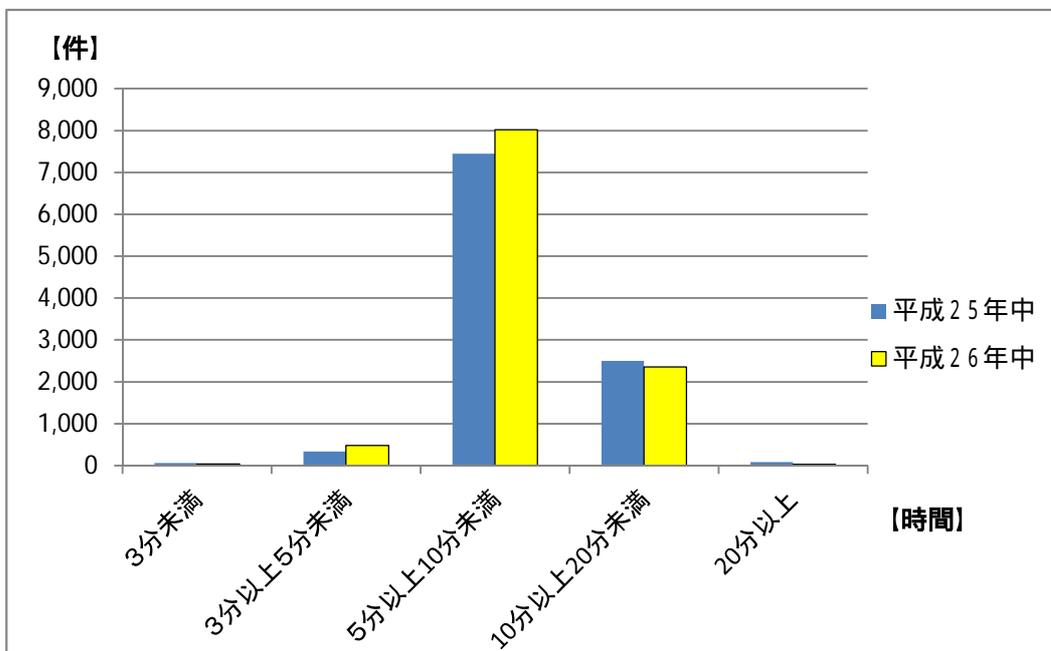
現場到着所要時間別出動件数(覚知～現場到着)

救急隊が現場到着に要した平均現場到着所要時間は、8.5分です。
 (平成25年の平均8.8分)

現場到着所要時間は、救急事故の覚知から現場に到着するまでに要した時間です。

現場到着所要時間別出動件数

到着時間	平成25年中	平成26年中
3分未満	60	36
3分以上5分未満	336	482
5分以上10分未満	7,450	8,017
10分以上20分未満	2,497	2,356
20分以上	84	28



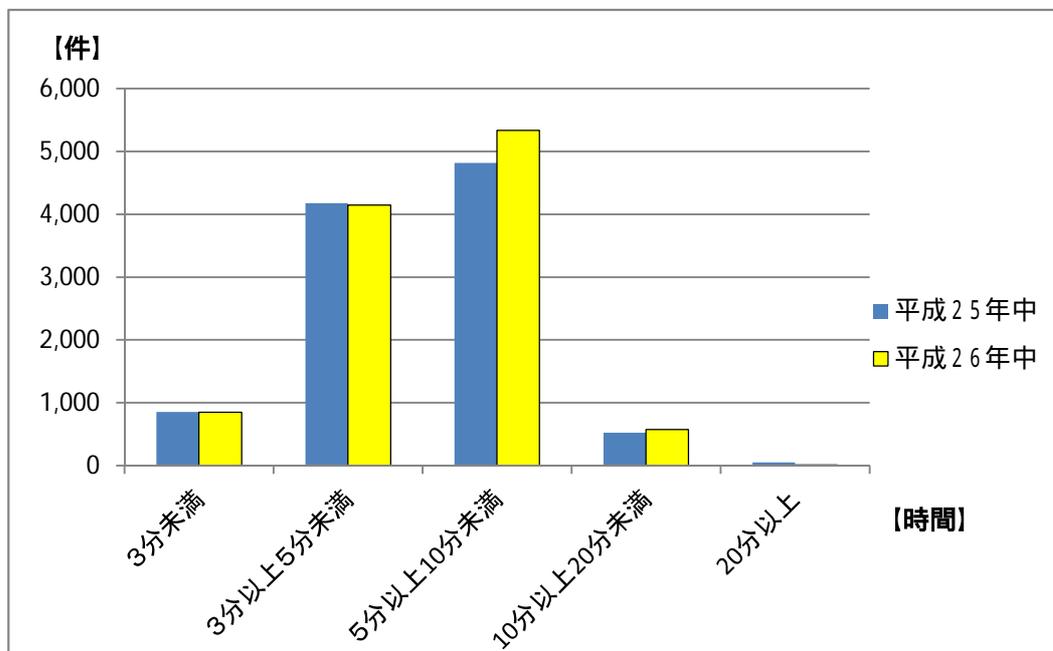
現場到着所要時間別出動件数(出場～現場到着)

救急隊が現場到着に要した平均現場到着所要時間は、5.6分です。
(平成25年の平均5.6分)

現場到着所要時間は、救急事故の出場から現場に到着するまでに要した時間です。

現場到着所要時間別出動件数

到着時間	平成25年中	平成26年中
3分未満	855	850
3分以上5分未満	4,175	4,146
5分以上10分未満	4,818	5,336
10分以上20分未満	526	576
20分以上	53	11

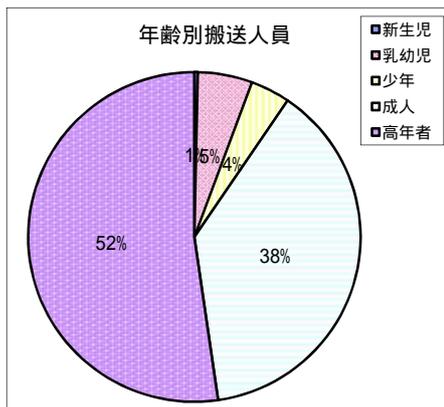


年齢別傷病程度別搬送人員 1

医療機関に搬送した8,827人のうち、成人が占める割合は38.2% (3,375人) 高年者は52.3% (4,615人) となっています。

	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
新生児	0	5	21	3	0	29
乳幼児	0	12	69	387	1	469
少年	1	9	45	284	0	339
成人	35	146	805	2,389	0	3,375
高年者	144	422	1,920	2,129	0	4,615
合計	180	594	2,860	5,192	1	8,827

新生児・生後28日未満
 乳幼児・生後28日以上～満7歳未満
 少年・満7歳以上～満18歳未満
 成人・満18歳以上～満65歳未満
 高年者・満65歳以上

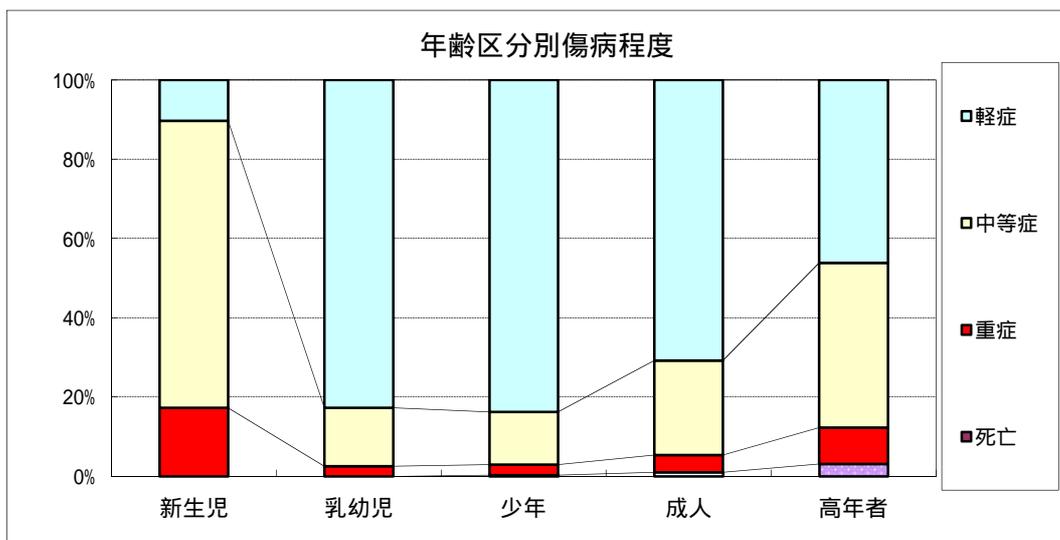


死亡 - 初診時において、死亡が確認されたもの

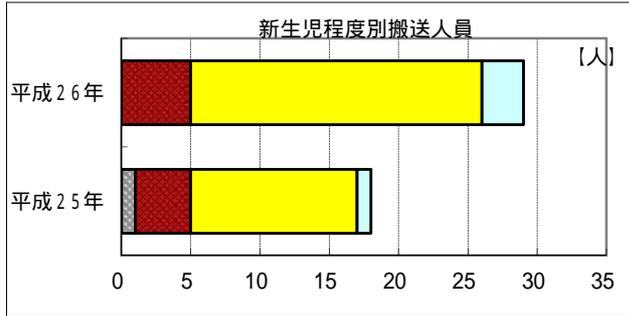
重症 - 傷病の程度が、3週間以上の入院加療が必要なもの

中等症 - 傷病の程度が、入院を要するもので重症に至らないもの

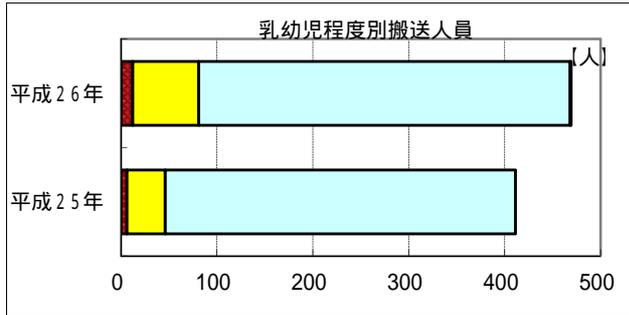
軽症 - 傷病の程度が、通院加療のもの



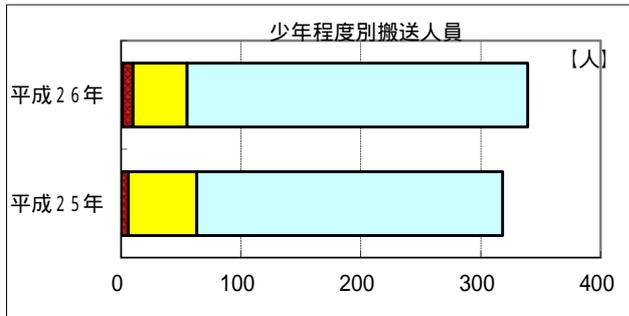
年齢別傷病程度別搬送人員 2



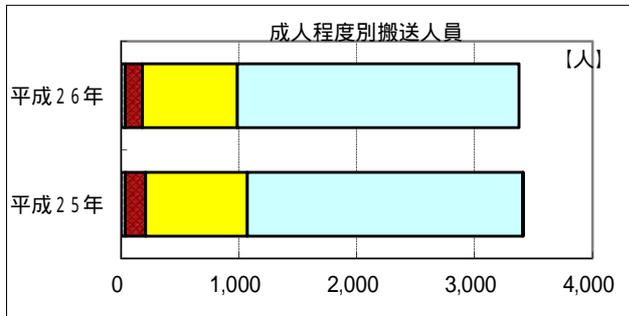
新生児	死亡	重症	中等症	軽症	その他
平成26年	0	5	21	3	0
対前年比	1	1	9	2	0



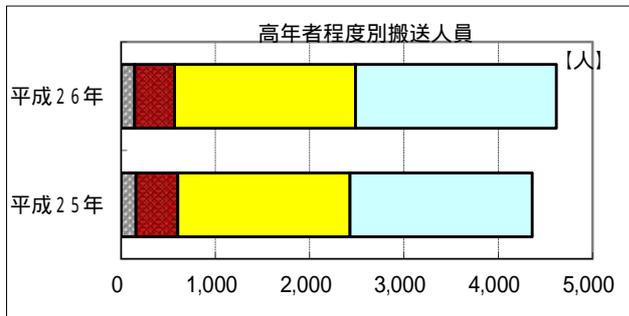
乳幼児	死亡	重症	中等症	軽症	その他
平成26年	0	12	69	387	1
対前年比	0	6	29	22	1



少年	死亡	重症	中等症	軽症	その他
平成26年	1	9	45	284	0
対前年比	1	3	12	29	0



成人	死亡	重症	中等症	軽症	その他
平成26年	35	146	805	2,389	0
対前年比	0	25	60	52	1

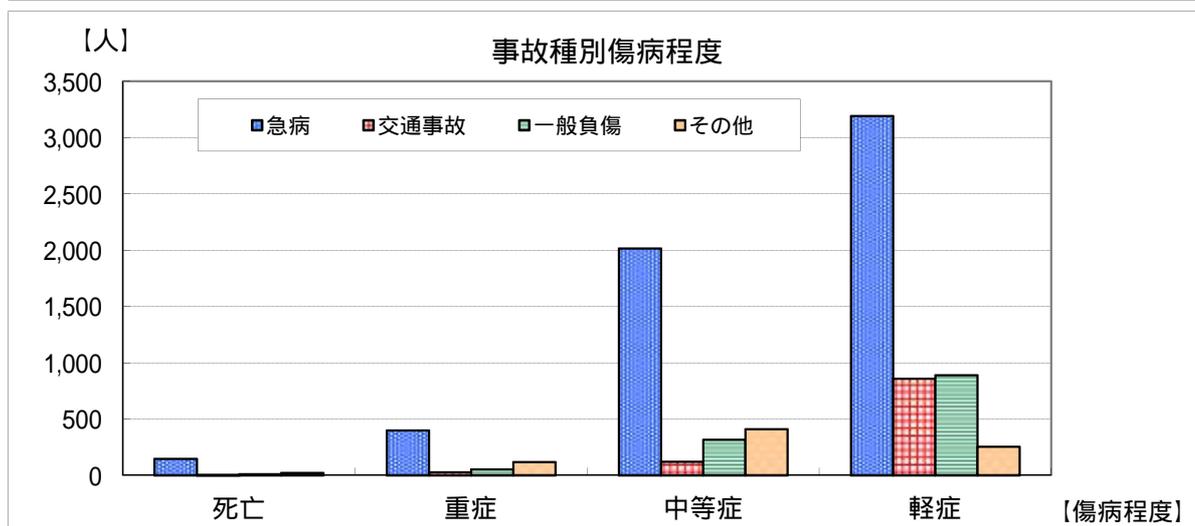
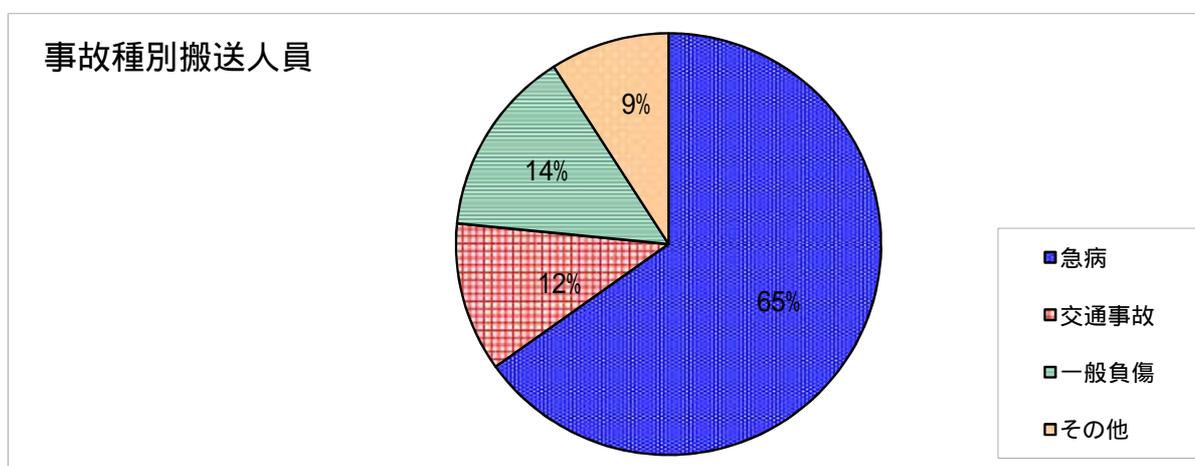


高年者	死亡	重症	中等症	軽症	その他
平成26年	144	422	1,920	2,129	0
対前年比	13	22	93	198	0

事故種別傷病程度別搬送人員

「急病」は、5,742人と全体の約65.1%を占めています。
 また、全体の約58.9%(5,196人)が入院を要しない軽症の傷病者でした。

	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
急病	145	397	2,015	3,192	0	5,749
交通事故	3	27	120	859	1	1,010
一般負傷	10	52	316	888	0	1,266
その他	22	118	409	253	0	802
合計	180	594	2,860	5,192	1	8,827



発生場所別搬送人員状況

	住宅	公衆出入場所	仕事場	道路	その他	計
急病	4,467	956	124	194	8	5,749
交通	12	26	1	971	0	1,010
一般負傷	743	276	13	214	20	1,266
その他	119	562	80	35	6	802
計	5,341	1,820	218	1,414	34	8,827

東京外環自動車道救急出動状況

種別	出動件数		搬送人員				合計
	件数	不搬送	軽症	中等症	重症	死亡	
交通	30	5	25	6	1	0	32
急病	1	1	0	0	0	0	0
その他	5	5	0	0	0	0	0
合計	36	11	25	6	1	0	32

上記数値は、外環自動車道に出動した総件数で、1事故に複数台の救急隊が対応しています。

上記外に交通事故にて搬送後、程度その他1人がおり、搬送人員合計は32人+1人で33人となる。

市民に対する救命処置の講習会

傷病者に対する救命効果の向上のためには、現場に居合わせた人(バイスタンダー)による応急手当が重要であることから、草加市消防本部では、市民に対する応急手当の普及啓発活動を積極的に推進する中、救急要請に対して、迅速・的確に対応し病院前救護の充実を図るため、AEDの普及及び市民等を対象とした応急手当講習(上級救命講習・普通救命講習・・・救急入門コース)を実施し、市民による早期の救命処置及び救命リレーの強化による、救命率の向上を図っています。

応急手当講習の内容は、全体が簡素化され、どなたでも簡単に実施できる内容になっております。

普通救命講習は、主に成人に対する心肺蘇生法(人工呼吸・胸骨圧迫)及びAEDの取扱いを中心とした3時間の講習会、普通救命講習は、業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定される方が対象となります(4時間)。普通救命講習は、主に小児・乳児・新生児に対する心肺蘇生法及びAEDの取扱いを中心とした3時間の講習会です。

また上級救命講習は、心肺蘇生法に加え傷病者管理法・外傷の手当て要領・搬送法等が加わった(8時間)の講習も実施しており、それぞれの講習修了者に修了証を交付しています。

救命入門コースは応急手当の導入講習として、心肺蘇生法に必要な胸骨圧迫とAEDの使用方法を修得することを目的とした講習会です(90分)。

	普通救命講習修了者数	普通救命講習実施回数	修了者総数
平成23年	1,554	84	20,204
平成24年	1,652	86	21,856
平成25年	1,351	77	23,207
平成26年	1,655	90	24,862

上級救命講習修了者数及び実施回数

	上級救命講習修了者数	上級救命講習実施回数	修了者総数
平成23年	40	2	344
平成24年	38	2	382
平成25年	39	2	421
平成26年	33	2	454

救命入門コース参加者及び実施回数

	救命入門コース参加者	救命入門コース実施回数	参加者総数
平成25年	96	5	96
平成26年	105	6	201

救 助 統 計



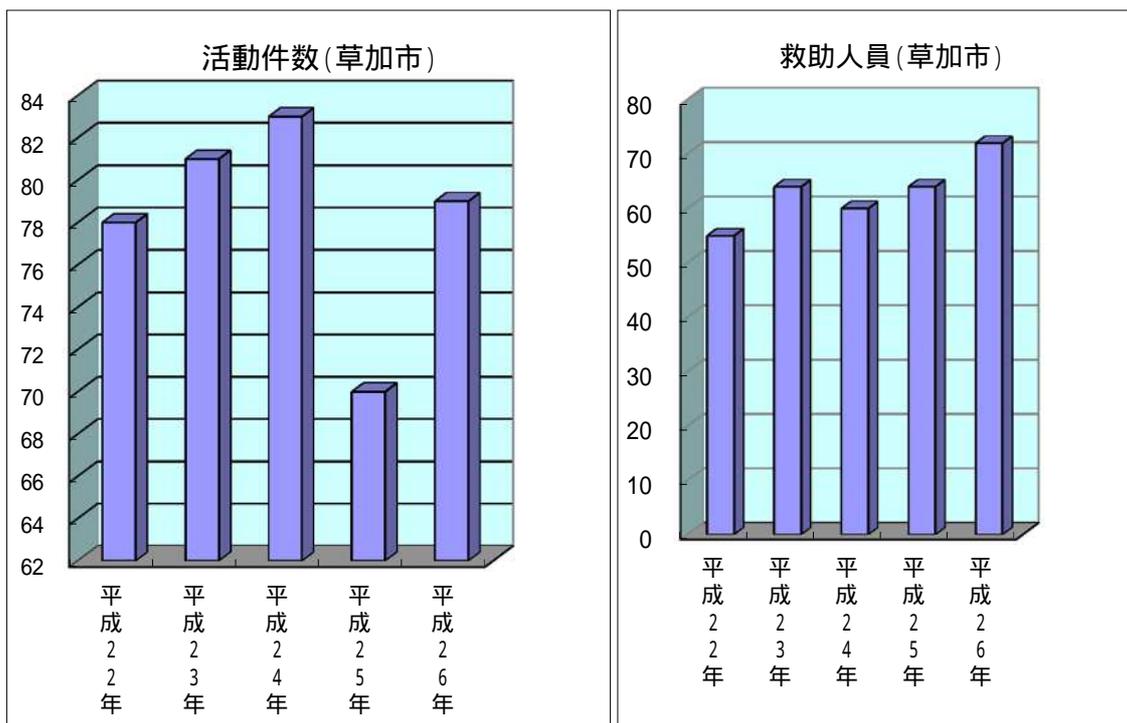
救助活動状況の概要

平成26年中に発生した消防機関が行う人命救助活動は、東京都町田市金属加工会社の火災、広島県広島市の土砂災害、長野県と岐阜県の県境に位置する御嶽山の噴火災害、台風等による豪雨・土砂災害等の災害救助事象が全国的に発生しました。

平成26年中の本市における救助活動件数は、前年より9件増加しました。

救助活動件数及び救助人員の推移

	救助活動件数			救助人員		
	草加市	埼玉県	全国	草加市	埼玉県	全国
平成22年	78	2,357	55,031	55	1,684	58,682
平成23年	81	2,574	57,641	64	1,859	63,618
平成24年	83	2,531	56,103	60	1,828	59,338
平成25年	70	2,578	56,915	64	1,843	57,659
平成26年	79	未集計	未集計	72	未集計	未集計



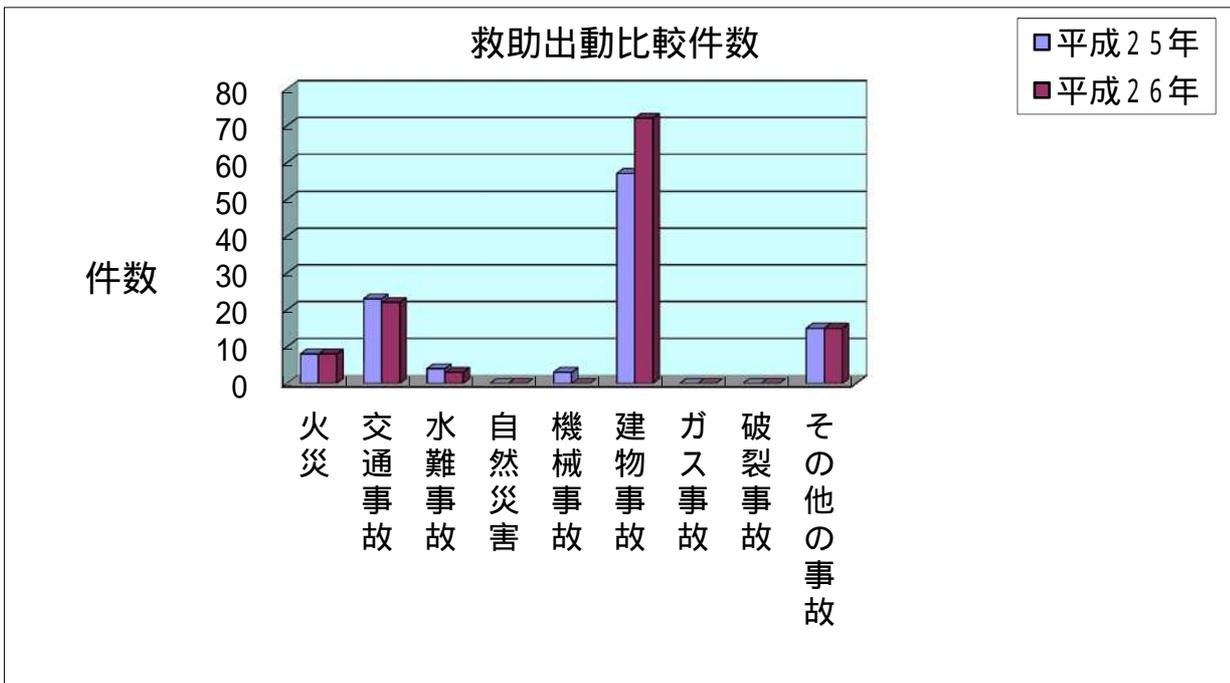
消防機関の行う救助業務とは、現に発生している災害等に起因する障害等から、要救助者を安全に救助・救命することを目的として行う一連の行動を言います。

事故種別救助出動状況

平成26年の救助出動は、前年より10件増加し、出動種別内訳についても建物事故が15件増加しました。

救 助 出 動 件 数

	火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物事故	ガス事故	破裂事故	その他の事故	合計
平成25年	8	23	4	0	3	57	0	0	15	110
平成26年	8	22	3	0	0	72	0	0	15	120



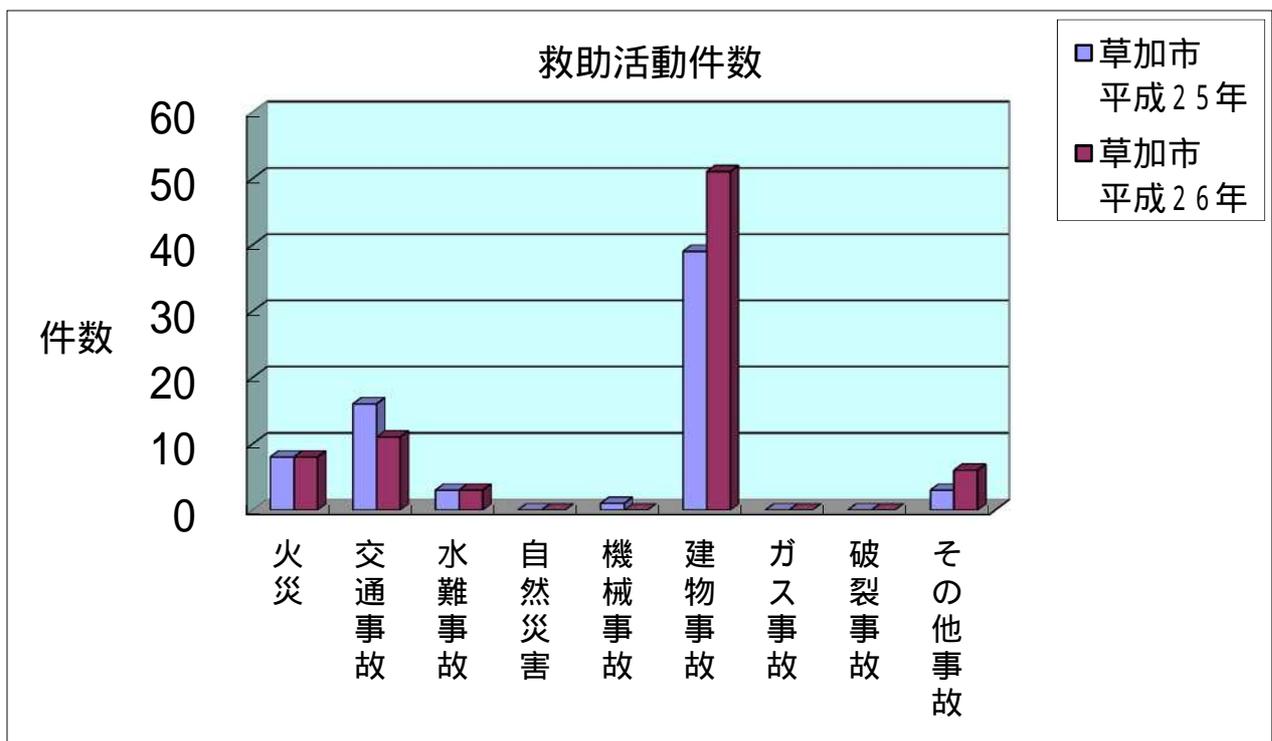
事故種別救助活動状況

救助活動件数とは、消防機関(主に救助隊)が各種事象において救助活動を行った件数であり、平成26年は出動件数の約66%を占めています。

その中でも、平成26年の傾向として交通事故及び建物事故の救助活動が多く、全体の約78%を占めています。

救助活動件数

	火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物事故	ガス事故	破裂事故	その他事故	合計
草加市 平成25年	8	16	3	0	1	39	0	0	3	70
草加市 平成26年	8	11	3	0	0	51	0	0	6	79
県内 平成24年	753	532	105	0	50	620	23	0	448	2,531
県内 平成25年	748	535	121	8	37	690	15	2	422	2,578
全国 平成24年	4,797	16,080	2,644	307	989	21,383	399	7	9,497	56,103
全国 平成25年	4,547	15,828	2,670	349	959	22,220	359	3	9,980	56,915

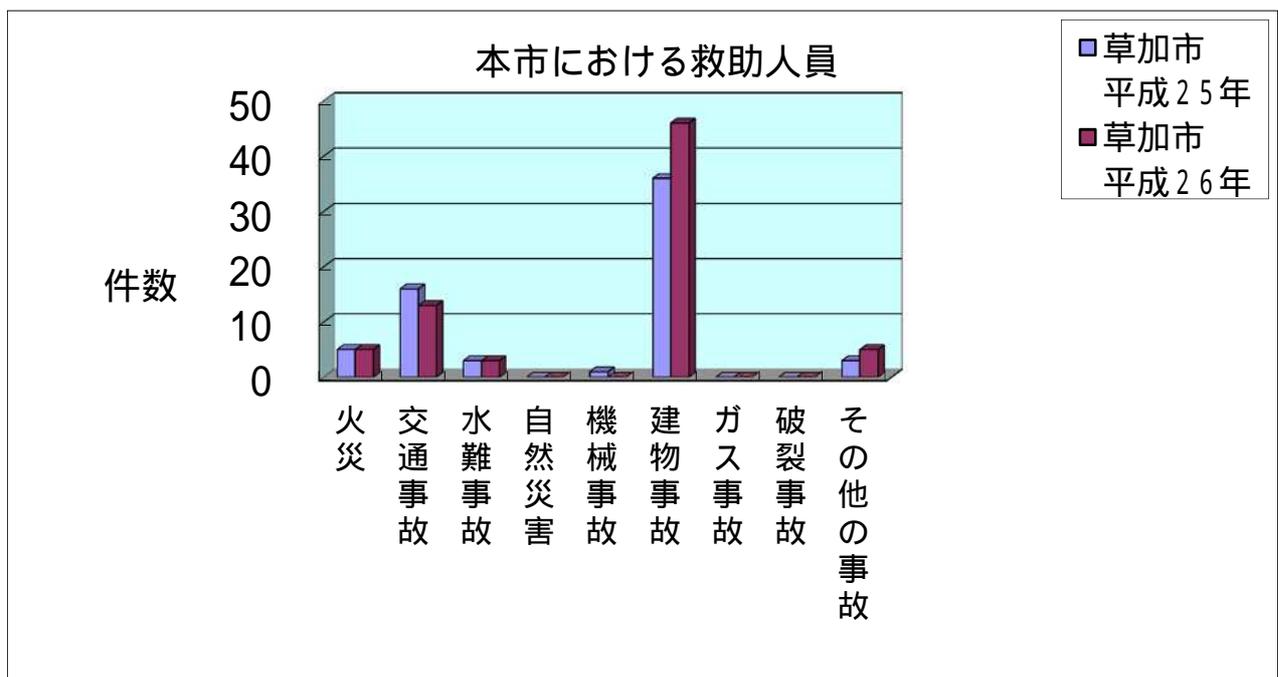


事故種別救助人員

救助人員とは、消防機関(主に救助隊)が救助活動により救出した人員を言います。平成26年の傾向として、交通事故及び建物事故の救助人員が多く、全体の約82%を占めています。

本市等における救助人員

	火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物事故	ガス事故	破裂事故	その他の事故	合計
草加市 平成25年	5	16	3	0	1	36	0	0	3	64
草加市 平成26年	5	13	3	0	0	46	0	0	5	72
県内 平成24年	113	612	87	0	66	536	11	0	403	1,828
県内 平成25年	120	585	89	13	52	606	10	0	368	1,843
全国 平成24年	1,870	21,610	3,745	1,152	1,185	19,962	397	9	9,408	59,338
全国 平成25年	1,638	20,333	2,585	1,293	1,183	20,758	349	1	9,519	57,659



平成 26 年中の主な救助活動事例

1 交通事故

乗用車と中型トラックの関係する交通事故で、各車両の運転手が脱出不能となり救助要請。中型トラックの男性 1 名は、ハンドル及びダッシュボードに挟まれていたため、テレスコピックラム及びチルホールで運転席を拡張後、助手席側よりバックボードに収容し救出する。乗用車の男性 1 名は、ハンドルに挟まれていたため、ハンドル部分にベルトスリングを掛けチルホールで拡張後、助手席側よりバックボードに収容し救出する。

(所要時間 18 分)

2 建物火災

共同住宅 3 階から煙が出ているとの通報により火災出動する。出火部屋玄関ドアの鍵が施錠されていたため、エンジンカッターで開口部を設定する。屋内進入し検索したところ、玄関付近に要救助者の男性 1 名を発見し徒手にて救出する。

(所要時間 10 分)

3 建物事故

救急隊が脊椎狭窄症の男性を一般住宅 2 階居室から搬送しようとしたところ、階段が狭隘であり搬出困難なため救助要請。2 階ベランダ部分に三連梯子を架梯し、要救助者をワイヤーバスケットストレッチャーに収容後、梯子水平救助第二法で救出する。

(所要時間 20 分)

4 その他の事故

2 歳の女兒が金属製の子供用座椅子の手摺部分に頭部が挟まってしまったため救助要請。手摺のパイプ部分をボルトクリッパーで切断し救出する。

(所要時間 4 分)

119番統計



119番通報状況

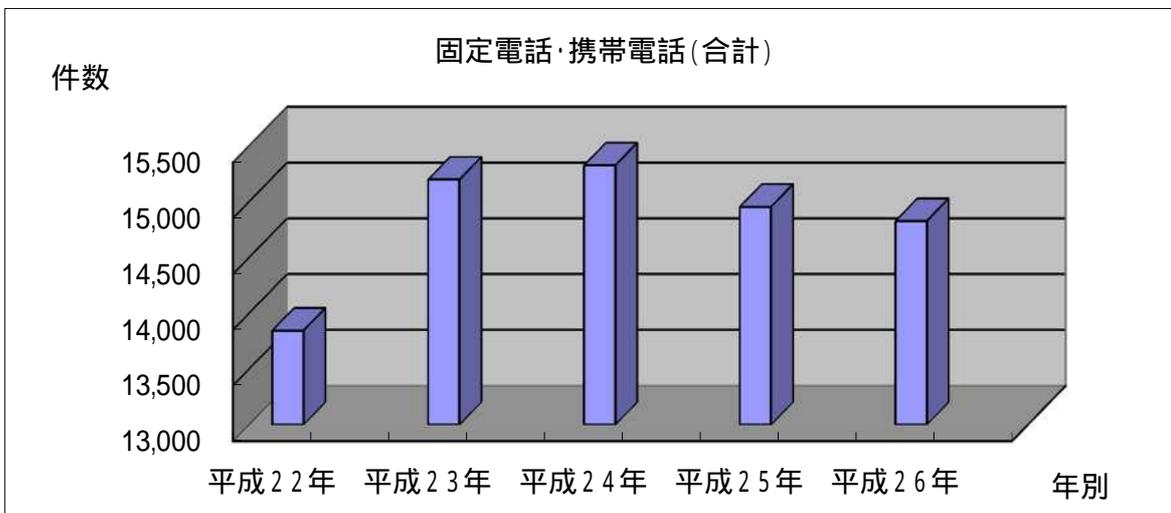
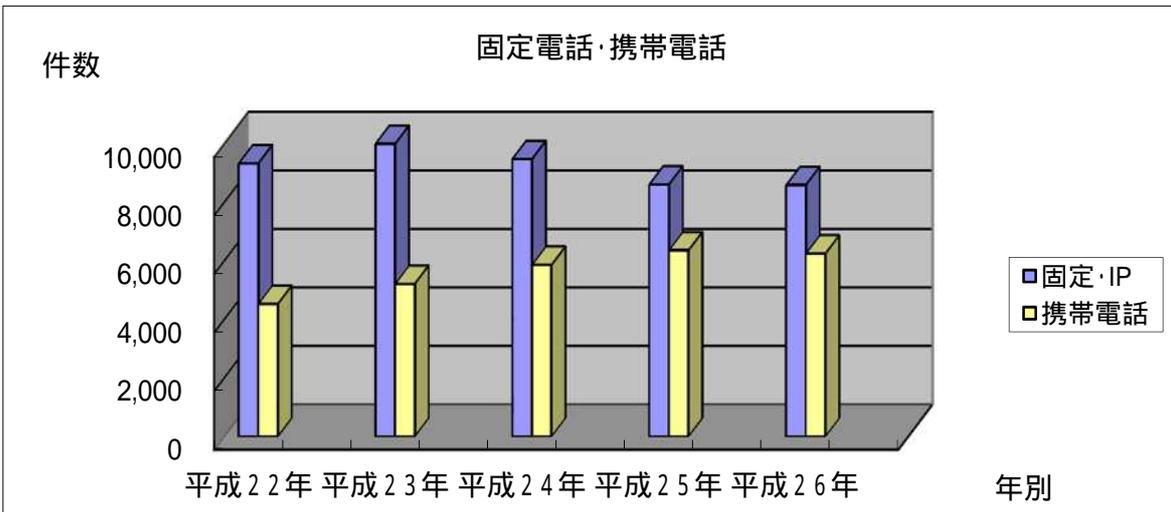
平成26年中の通報件数は、14,827件でした。

その内、携帯電話による通報は、6,240件で昨年(6,352件)より約1.7%減少しました。

通報内容は、災害(火災、救急、救助、警戒)が9,382件で、全体の約63%で最も多く、次に休日当番医等の問い合わせが1,908件で約12%、いたずら・間違い通報が1,055件で約7%、近隣消防本部への転送が493件で約3%でした。

その他の1387件の中には、ペンダント所持者からの要請が17件、救急ネット登録者等に関する救急要請が165件ありました。

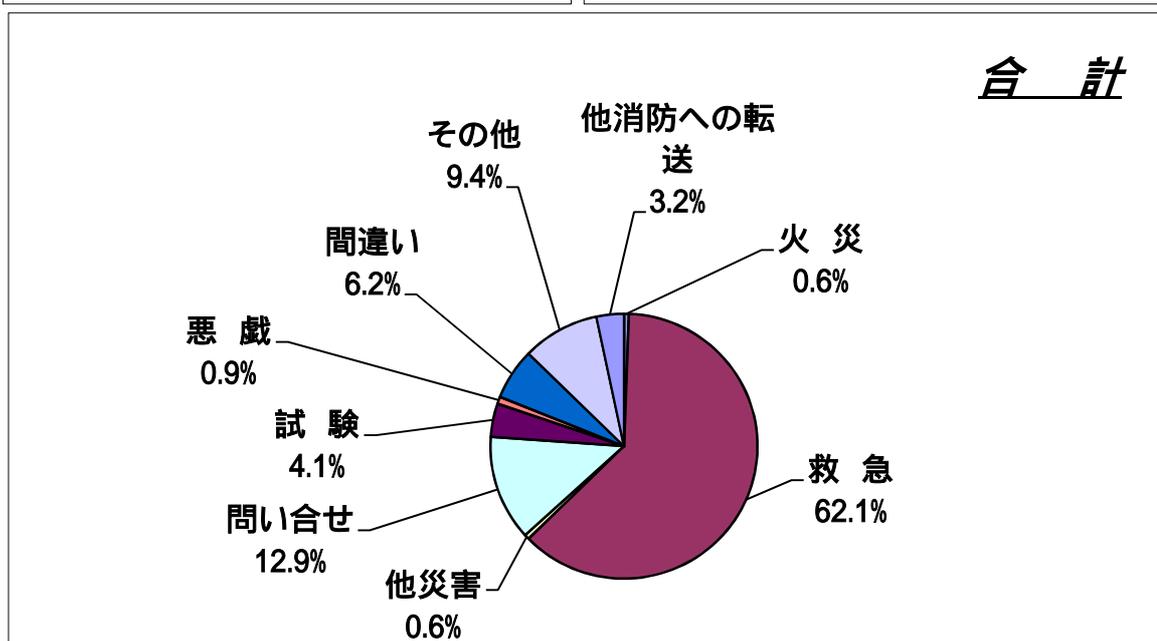
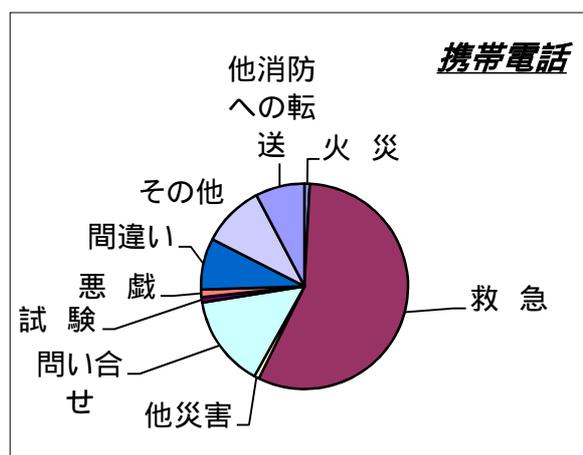
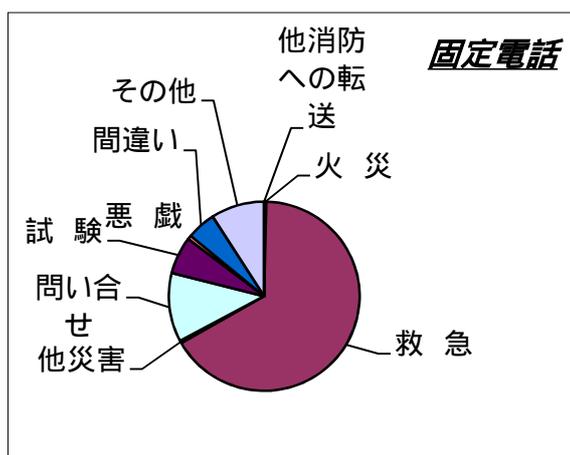
	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
固定・IP	9,324	9,993	9,473	8,602	8,587
携帯電話	4,520	5,205	5,853	6,352	6,240
合計	13,844	15,198	15,326	14,954	14,827



平成26年火災報知専用電話等(119番)種別受信状況

受信内訳	固定・IP電話	携帯電話	累 計
火 災	33	53	86
救 急	5,688	3,520	9,208
他災害	40	48	88
問い合わせ	1,008	900	1,908
試 験	547	55	602
悪 戯	57	72	129
間違い	421	505	926
その他	778	609	1,387
他消防への転送	15	478	493
合 計	8,587	6,240	14,827

同一災害で、複数通報や結果として災害に至らなかった場合等がありますので、災害件数と一致しません。





草加市消防本部